

研究発表申し込みフォーム

氏名：ナムダグ・ハグバジャブ

氏名のローマ字表記：Namdag Lkhagvajav

所属：東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程 3 年

専門分野：言語学

発表のタイトル：モンゴル語の副動詞に後続する 3 人称所有小詞 n' について

発表要旨（600 字～800 字程度）：

モンゴル語には 1 人称所有小詞 min', maan', 2 人称所有小詞 čin', tan', 3 人称所有小詞 n' といった人称所有小詞が存在する。こうした人称所有小詞は名詞項（格接尾辞が後続した名詞項）もしくは動詞の連体形に後続することが可能であると言われている。モンゴル語の 3 人称所有小詞 n' の用法やそれが表す意味についての研究はいくつか行なわれている。特に n' の直前に名詞と代名詞が現れる場合を対象とした記述が多く見られる。また、形動詞のうちのいくつかは n' が後続した形式についての指摘がみられるが、n' が副動詞に後続した場合の研究は見当たらない。本研究では全副動詞のそれぞれに 3 人称所有小詞 n' が後続した場合を対象とし、電子コーパス（Corpus Technologies が 2007 年から 2009 年にかけて開発した Mongolian National Corpus であり、ウェブで検索可能なコーパスである）から実例を収集して、副動詞に後続する n' についての徹底的な調査を実施した。副動詞接尾辞として -AAAd, -bAl, -sAAr, -tAl, -mAgc, -xlAAr, -ngUUt, -ngAA, -xAAr, -mAAžin (-mAAž), -xAd, -vAAs を対象に調査を行った。その結果として、まず副動詞の後に n' が現れる出現頻度は、副動詞によって大きく異なっていることが分かった。具体的に言えば、出現頻度の高い組み合わせは -xAd+n', xAAr+n', -tAl+n' であり、出現頻度が低い組み合わせは -xlAAr+n', -bAl+n', -mAgc+n', -ngUUt+n' である。これらの副動詞接尾辞について n' が後続した形式もやはり副動詞的に機能するかどうかを確認し、n' が後続することによって表す意味に変化が起きているかどうかを確認した。さらに、n' が後続することによって副動詞における節間の主語の異同にも影響が及ぶことが分かった。その他の -ngAA, -sAAr, -vAAs, -mAAjin (mAAj) 副動詞接尾辞に関しては、n' を後続した実例をコーパスで抽出するができなかったため、母語話者としての筆者自身の内省も踏まえ、n' を後続することが不可能な副動詞接尾辞であると判断した。